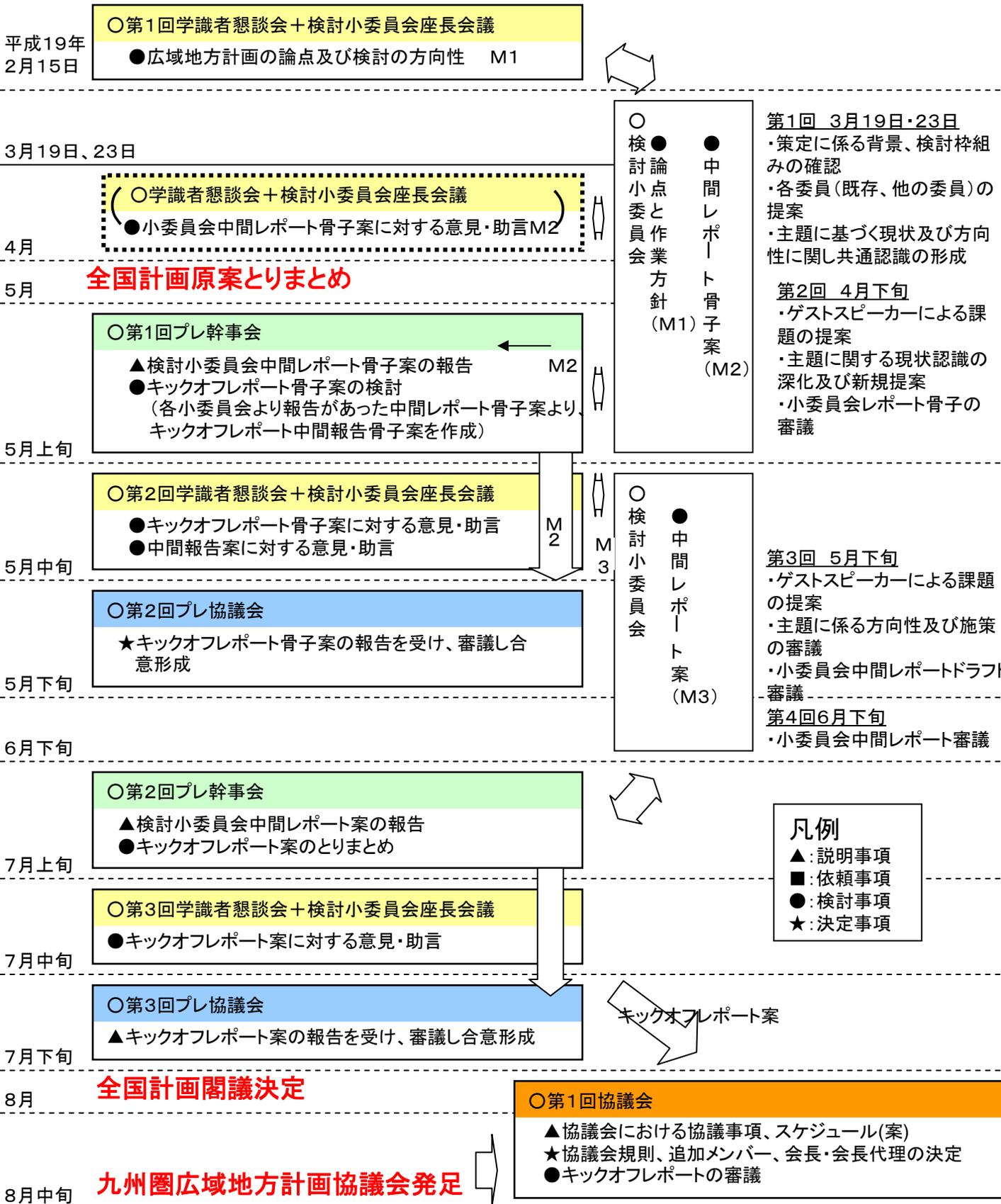
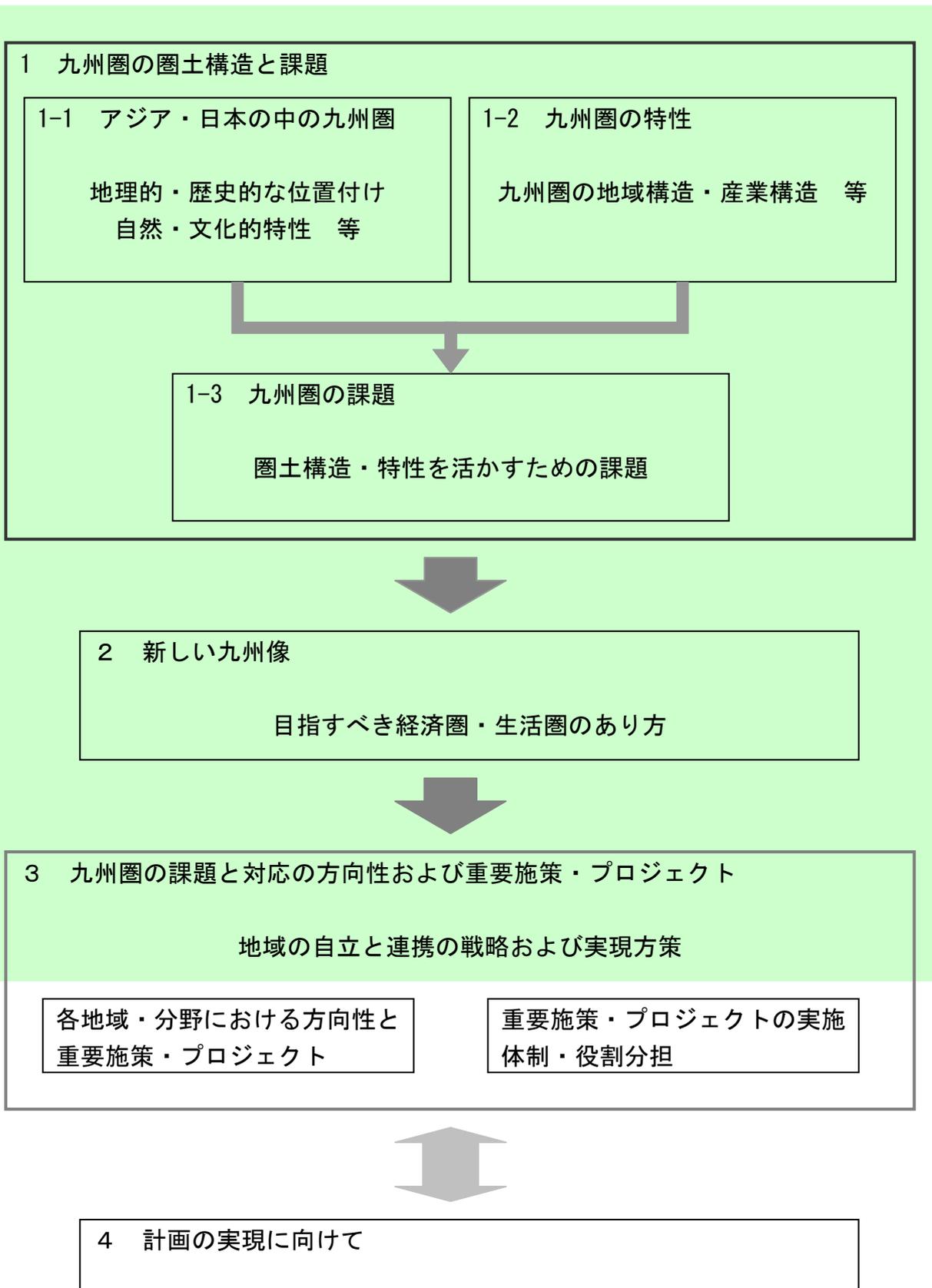


九州圏広域地方計画策定に向けてのキックオフレポートの作成手順



キックオフレポートの構成イメージ（案）

キックオフレポート骨子の記載内容（3は対応の方向性まで）



自立的発展を目指す検討小委員会 中間レポートの構成イメージ

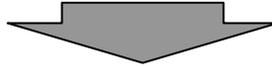
◎ 九州圏の圏土構造

○ アジア・日本の中の九州圏

- 国土における九州圏の位置付けの変化
- アジア諸国と地理的に近接し、歴史的につながりが深い文化・生活を有する
- 国境離島を有する
- 太平洋ベルトでの位置づけは低い
- シリコンアイランド、カーアイランド
- 食糧・木材の供給基地
-

○ 九州圏の特性

- 温暖な気候と豊かな自然
- 急峻な九州山地が中央に位置
- 離島・半島などの地理的制約のある地域が多い
- 災害が多発
- 中核となる都市が適度に分散配置し、都市と農村が近接
- 多自然居住地域を有する
- 東西間・南北間格差(人口、所得、産業、インフラ…)
- 観光資源を全域に有する
-

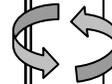


◎ 九州圏の課題と対応の方向性

○ 「自立的発展」を目指す上での課題

- 離島人口の多さ、中山間地など限界集落の多さとその崩壊・消滅の危険の高まり
- 耕作放棄地の増大
- 全国の2割を占める一次産品と多様な「食」関連企業の活用方法
- 豊かな観光資源、歴史・伝統等未利用資源の活用方法
- 中山間地における情報通信基盤や交通アクセスの悪さ
-

「活力ある経済社会」を目指す上での課題



「生活の安全と豊かな環境」を目指す上での課題



○ 対応の方向性(例示)

- 地域が持つ豊かな自然・歴史・伝統文化などの地域資源を活用し、多様な地場産品が連携した産地ブランドの形成などにより、持続可能な村づくりや地域活性化を目指す。
- 九州には農山村、都市とが日帰り圏にあり、都市と農山村の間で観光その他の交流が不断に行える環境にある。また、東アジアからの観光客も増大しており、アジアと一体化した交流圏づくりも可能である。
- 国境線を持ち、安全保障上大きな役割を果たしており、自助努力だけでは地域を維持できない地区の一部には、何らかの支援を行うことで維持する必要がある。
-
-
-
-
-



◎ 新しい九州像

-
-
-
-
-

検討小委員会の審議にあたっての留意点について

－ キックオフレポート（案）の作成まで －

1. 概ね10年間における「九州圏広域地方計画」の議論の土台を構築する。
2. 担務とする分野を中核として、議論を進める。
3. 「キックオフレポート（案）」を構成する「検討小委員会中間レポート」を作成する。
4. 「検討小委員会中間レポート」は、「キックオフレポート（案）」の構成にこだわらず作成する。
5. 「検討小委員会中間レポート」は、他の検討小委員会に関連する事項についても前広に提案する。
6. 「検討小委員会中間レポート」には、プロジェクト名は必要に応じて例示する。